

# 福井県嶺南地域流域検討会ニュース<北川住民説明会編<2>>

このニュースレターは、「北川水系河川整備計画（原案）」の住民説明会の開催状況についてとりまとめたものです。

編集・発行 福井県嶺南地域流域検討会

これまで、右記のとおり嶺南地域流域検討会において、北川水系の河川整備に関する審議が行われ、河川整備計画（原案）が作成されました。この原案について、地域の方々のご意見をお聴きするために住民説明会を開催しました。



若狭町会場



小浜市会場

住民説明会の様子

## これまでの嶺南地域流域検討会の経緯



## 「福井県嶺南地域流域検討会」の設立について

- 平成9年の河川法の改正に伴い、河川管理者は、河川の長期的な基本計画である「河川整備基本方針」、および20～30年間の具体的・段階的な計画である「河川整備計画」を策定することとなりました。
- 福井県では、嶺南地域の「河川整備計画」を策定するにあたり、学識経験者から意見を頂くこととし、「福井県嶺南地域流域検討会」を設置することとしました。

河川管理者より、「北川水系河川整備計画（原案）」について、スライドを用いた説明が行われ、それらに関する住民の方からのご質問やご意見をいただきました。

●説明内容

1. 河川整備計画策定の背景と経緯について
2. 北川水系河川整備計画（原案）について

●開催日および会場

- 平成20年8月18日（月） 若狭町歴史文化館（上中公民館）  
平成20年8月19日（火） 小浜市働く婦人の家

## 住民説明会でいただいた主なご質問およびご意見

（■質問事項 □河川管理者回答）

### 【若狭町会場】

- 治水安全度がたとえば1/5であれば、どのくらいの雨量か具体的な数字で教えてください。  
□嶺南地方では、1時間当たり5年確率で50mm程度、10年確率で60mm程度です。
- 鳥羽川と野木川と中川の三つは、整備が完了しているとの評価ですが、たとえば鳥羽川の現状の治水安全度評価が1/5以下となっていることは、どう考えたらいいのでしょうか。  
□S40年代からの継続的に整備を行ってきており、その当時には、10～30年確率を目標とした計画で整備されてきましたが、近年の短時間の降雨の増加が考慮された現時点の手法で評価を行うと、当時と比較して安全度が小さくなっています。しかしながら、改修後は河川の氾濫による家屋の浸水被害が発生していないことから、改修事業による一定の効果が見込めるものと判断しました。
- 遠敷川の下流の方で過去2回くらい床下浸水していますが、洪水対策の対象とはならないのでしょうか。  
□遠敷川の下流は、国の管理区間になっており、今年度をめどに整備計画が立てられる予定です。その中で、何らかの対策が計画されると思います。
- ダムについて、貯水池の表面と下の方では、どれくらいの水温の差が出るのでしょうか。それによって、生態系に変化が起こることはないのでしょうか。  
□シミュレーション計算により、十数度の水温差が発生することを確認しています。この対策としては、貯水池の任意の水位から選択して取水できるような設備（選択取水設備）を設け、適正な水温での放流ができるように計画をしています。

### 【小浜市会場】

- 江古川の治水対策について、「輪中堤案」のメリット、デメリットをもう少し詳しく説明して欲しい。将来にわたって安心できるような「水門+ポンプ案」を今回の計画に組み入れて欲しい。  
□「輪中堤案」は、なるべく保全対象である宅地に限定して堤防を設置するというものです。規模をだいぶ小さくできますので、比較的小さい構造のもので整備できます。逆に、守るところを限定すればするほど、守られない部分が出てきます。避難路も浸水する可能性がありますので、どのように守っていくかということが課題になります。
- 「水門+ポンプ案」は、効果的ではありますが、かかる費用が膨大になるという問題があります。また、本川の水位が堤防いっぱいでは流れているところに、ポンプアップして排水する状態となる場合、家屋、市街地が集中している下流区間を、さらに危険な状態にする可能性もあります。慎重な検討が必要だと考えます。

■江古川の対策について、事業費のおよその見積額（維持管理費を含む）を教えてください。また、守られる地域の対象戸数は、どのくらいになるのでしょうか。

□かなりの概算ですが、「大」で数十億円の規模で、「小」や「中」でも数億円が大体の目安です。維持管理費用は、ポンプなどの施設を造りますと、年間数百万円のオーダーでかかってくるのではないかと考えられます。江古川の地区で本川北川の計画高水位より低いと思われる所に家屋は、45戸あります。

■ダムを造った場合に今の水道料金から比較して、どのくらいの費用負担が増えるのかを教えてください。

□（小浜市）どのくらい料金が上がるかということは、現在正確にはまだ出ておりません。正確に出ていないのですけれども、超概算で約2倍程度上がる可能性があります。

■小浜市の水需要が増えるとのことですが、人口はこの4～5年の間に千数百人減っているのではないのでしょうか。

□（小浜市）人口の減少、あるいは社会経済の低迷により、使用水量は減っています。よって、給水区域を拡張せずに、区域がそのままであれば、使用水量は減っていきます。しかしながら、小浜市内に点在する簡易水道という小規模な、運営の厳しい水道施設がありまして、それらを給水区域に取り込んでいく事業を計画しています。そのため、区域の拡張に伴い使用水量が増えることとなり、将来的な水需要は増大します。

■ダムについて、費用対効果は、どのようになっているのでしょうか。小浜市にとって、ダムは利水目的なのか治水目的なのか、どちらなのでしょうか。

□費用対効果については、ダムの効果は広く北川本川流域にもあることから、国交省と調整しながら検討を行っています。100年に1度の将来計画規模で氾濫したときに発生する被害額と、ダムの建設費用を比較してとその効果を判定します。また、ダムは治水と利水両面を目的とするものです。

■要望として江古川のように、現実的に3～4年に一度ぐらいで起きている災害について、対応できるように対策を講じて欲しい。

■国と県の両者が、それぞれの計画をすり合わせて全体計画を作るようなことが必要かと思えます。

□この原案を策定する際にも、国と十分調整を行っております。ただ、江古川は北川の影響が大きく、先に県の方だけが計画を定めても、十分な効果が得られないものもありますので、国と今後も調整します。今の段階は、10年という治水安全度の目標と、整備の対象となる区間を示させていただきましたが、今後計画が十分調整ができましたら、変更という形で整備計画の見直しを行う予定です。

■ダムというものは、何年ぐらい耐用年数があるのでしょうか。

□コンクリートの構造物ですのでかなりもちますが、設計としては100年を想定しています。ダム湖の中の堆砂も100年で所定の量になると計画で見込んでいます。ただし、堆砂を定期的に除去していくことで、ライフサイクルを延ばしていくことは可能です。

■黒部川などでは土砂を流していくことで、海の方まで漁業被害が出ています。いろいろな環境への影響が既に懸念されているところ、ほかで問題になっているところがたくさんあると思えます。それらを整備計画に盛り込むようお願いしたい。

□一気に放流させる形で土砂を流してしまいますと、海域、特に河口部において、生物とか環境への影響というのは大きいと思います。今後の検討の中では、環境への影響が想定される場合の対応等について考えていきます。

□なお、計画している河内川ダムは排砂ゲートを設けない構造のため、大量の濁り水が放流されることはありません。堆積土砂の撤去を行う場合は、湖底の浚渫を行うこととなります。

■北川本流およびその河口域を含めて、全体でどういうふうと考えていくかという仕組みを作り、その中でダムの管理をどうするのだということを、作り上げて欲しい。

（→対応：国の流域委員会、住民説明会の場に同席し、審議を重ね計画の調整を図っていく）

■整備計画には、デメリットとか、それに対する対策がまったく書かれていないように思えます。川の重要性は、山から川、海につながって、すべてをつなげていくものとして認識されているので、みんなで考えていけるようなものを出して欲しい。

□デメリットや影響も当然、課題として書いていくべきだと考えております。基本方針の中でも、土砂管理として、環境に対する影響について、今後調査研究を進めデータを蓄積しながら適正な管理を行っていくと記載されています。県の整備計画としては、基本方針に基づいた形で、検討および対応していかなければならないと考えます。（→対応：整備計画にダム整備にかかる影響の予測や評価、および対策について記載）

☆☆☆☆☆☆☆☆ 流域検討会からのお知らせ ☆☆☆☆☆☆☆☆☆

- 流域検討会は、どなたでも傍聴できます。
- 流域検討会の資料は、下記の場所で供覧・貸出しができる他、ホームページからもダウンロードできます。

福井県嶺南地域流域検討会委員名簿（五十音順、敬称略）

氏名	専門分野	所属	備考
おおき かおり 大城 香	環境 (植物)	福井県立大学 教授 生物資源学部	
おおたけ しんや 大竹 臣哉	環境 (海洋生物)	福井県立大学 助教授 生物資源学部	
かとう ふみお 加藤 文男	生物 (魚類)	元仁愛女子短期大学 教授	
くぼかみ そうじろう 久保上 宗次郎	生物 (鳥類)	鳥類専門家	臨時委員
たに てるひろ 多仁 照廣	歴史文化	敦賀短期大学 教授	
なかじま たつお 中島 辰男	歴史文化	前若狭歴史民俗資料館 館長	
ひろへ えいち 廣部 英一	治水	福井工業高等専門学校 教授 環境都市工学科	
ほそだ たかし 細田 尚	治水	京都大学大学院工学研究科 教授	会長

福井県嶺南地域流域検討会ニュース<北川住民説明会> 平成20年9月発行

【編集・発行】福井県嶺南地域流域検討会

【連絡先】福井県嶺南地域流域検討会 事務局

- 福井県土木部河川課（流、奥山）  
〒908-8015 福井市大手3-17-1  
電話：0776-20-0481
- 福井県嶺南振興局敦賀土木事務所地域整備課（宮本）  
〒914-0811 敦賀市中央町1-7-36  
電話：0770-22-4661（代）
- 福井県嶺南振興局小浜土木事務所地域整備課（斉藤）  
〒917-0241 小浜市遠敷1-101  
電話：0770-56-2100（代）
- 福井県嶺南振興局河内川ダム建設事務所工務課（武長）  
〒919-1532 三方上中郡若狭町熊川40-26  
電話：0770-62-0688（代）

福井県嶺南地域流域検討会ホームページアドレス

<http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/kasen/seibi/reinan.html>

ご意見は下記のメールアドレスまでお寄せください

E-mail : reinan@pref.fukui.lg.jp